

チューリッヒ日本人学校創立30周年を祝して

チューリッヒ日本人学校校長 鈴木史良

去る11月11日、お陰様でチューリッヒ日本人学校は創立30年という大きな節目を迎えることができました。また、当日は、在スイス日本国大使館特命全権大使、本田悦朗様、ウスター市長、ヴェルナー・エグリ様をはじめ、多くの来賓の方々のご臨席を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本校は1988年に法人チューリッヒ日本人学校として開校いたしました。しかし、その13年も前に、チューリッヒ市内に日本語学校をスタートさせ、幾多のハードルを乗り越えてまいりました。そして全日制と日本語補習校を整え、日本政府に認定された在外教育施設として現在に至ったという経緯がございます。児童・生徒の在籍数の推移を見ると、全日制は90年度の86名をピークに、ここ数年は20名を割っています。逆に補習校は200名の多きを数えるまでになりました。

ここウスターという緑豊かな街に30年の歳月を刻み、ここで私たちが安心して学ぶことができますのも、ひとえに本校の歴史を支えてくださったチューリッヒ日本商工会の皆様、地元スイスの関係者の皆様、在籍した子どもたちや保護者の皆様、そして教職員の方がたの地道なご努力の賜物であると存じております。

私はこの30周年を機に、本校の未来像、次の30年をどう迎えるかについて思いを巡らせます。このたび、記念式典に合わせて発刊いたしました30周年記念誌の刊行もその一環です。法人日本人学校初代校長の千葉正先生をはじめ、ゆかりのあった方がたからご寄稿いただき、これまでの歩みを振り返りました。その上でしっかりと足固めをして、次の時代に一步踏み出せる学校に、次代を担う子どもたちが育つ学校にしたいと考えます。今、地球環境や国際情勢の潮流は私たちの予測以上のスピードで変化しています。子どもたちはこれからの社会を生き抜く力をもつ必要があります。多様性に満ちた21世紀をたくましく生きること、グローバルな動きを見据えて、柔軟に対応できること、そういう人づくりが在外日本人学校に求められてくるのではないのでしょうか。本校で学んだ子どもたちが世界に羽ばたき、この地球がより住みやすい場所になるよう貢献できる人材として活躍されることを祈念いたします。

